Case.21

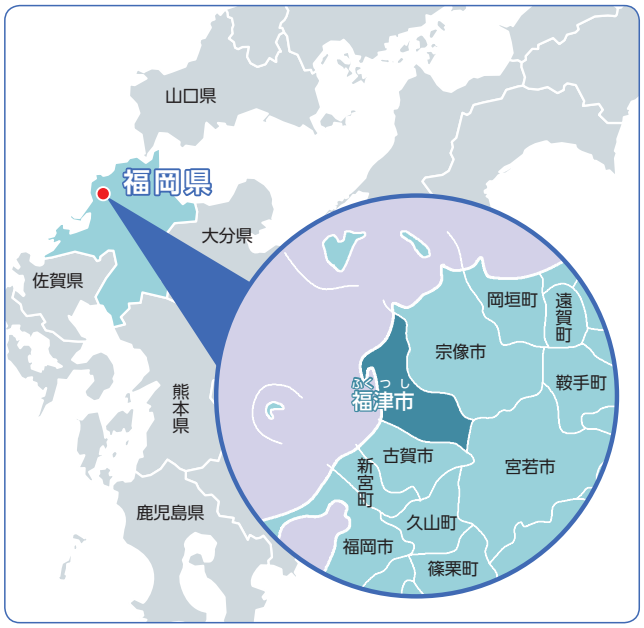
福　岡　県　福　津　市

地域資源の活用による農水産業の振興

福津市の概要

福津市は、2005年の福間町と津屋崎町の合併により誕生した。福岡県の北西部に位置し、北東は宗像市、南東には宮若市、南は古賀市に隣接する。また、西側は玄界灘に面している。福岡市と北九州市の両政令市の中間に位置しており、市内を走るJR鹿児島本線や国道3号、国道495号、市から近くの九州自動車道若宮インター、古賀インター等、抜群の交通アクセスを誇ることから、両政令市への通勤・通学の利便性を背景とした住宅地域として発展を遂げてきた。

■ 福岡県における位置



市内には、年間を通じて多くの参拝客が訪れる宮地嶽神社や、マリンスポーツのショップやおしゃれなカフェ・レストランが立ち並ぶ福間海岸等、魅力的な観光スポットが数多く存在する。また、市内の新原・奴山古墳群を構成要素とする「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が、世界文化遺産の候補として推薦され、注目を浴びている。

また、キャベツ、カリフラワー等の栽培が盛んな農業、真鯛の水揚げ等で有名な漁業にも特色があり、福岡県内おける新鮮な食料品の生産供給地としての役割も果たしている。

■ 主要データ

人　口		58,781人（平成27年国勢調査）
面　積		52.76㎢（平成27年全国都道府県市区町村別面積調）
事業所数		1,892事業所（平成26年経済センサス－基礎調査）
従業者数		16,645人（平成26年経済センサス－基礎調査）
	第1次産業	48人（平成26年経済センサス－基礎調査）
	第2次産業	2,165人（平成26年経済センサス－基礎調査）
	第3次産業	14,432人（平成26年経済センサス－基礎調査）
耕地面積		1,220ha（平成27農林水産関係市町村別統計）
漁獲量		172t（平成26年農林水産関係市町村別統計）
観光入込客数		4,913千人（平成26年福岡県観光入込客推計調査）

地域資源の活用による農水産業の振興

利活用事例の全体像 施策立案型

活用の背景

露地野菜や真鯛の産地として知られる福津市は、宮地嶽神社や美しい海岸線等の観光地としての魅力も有する。市はこれらの地域資源を活用した観光と農水産業の連携強化を図り、地域経済の好循環の創出や関連事業者の収益性向上等を目指したいと考えていた。そこで、市の観光入込客数の状況と農水産業の現状・課題を分析し、施策の展開につなげることを目指した。

↓

分析1 観光入込客数の自治体間比較（独自分析）

↓

分析2 農水産物の販売金額（産業構造マップ－農産物販売金額、海面漁獲物等販売金額）

↓

分析3 農水産業の担い手の年齢（産業構造マップ－農業者分析、海面漁業者分析）

↓

分析4 農地流動化率および耕作放棄地率（産業構造マップ－農地分析）

↓

分析5 市内の関連事業者へのヒアリング（独自分析）

↓

課題の見える化

観光入込客数が福岡県内で上位の自治体の中から農水産業に特色がある宗像市および糸島市を抽出し、農水産業の現状について福津市と比較分析を行った結果、次の課題が浮き彫りになった。

- 農産物の販売金額の総額は低く、海面漁獲物の販売金額は総額のほか経営体当たりでみても低い。
- 担い手の高齢化が比較的進んでいることに加え、耕作放棄地率の高さや農地流動化率の低さの面からも、農水産業の将来的な存続が懸念される。

また、関連事業者に実施したヒアリングの結果、これらの課題認識が裏付けられ、課題解決のためには、流通の改善や農水産物の販売金額増加のための取組が必要であることを認識した。

↓

分析6 農水産物の出荷先（産業構造マップ－農産物販売金額、海面漁獲物等販売金額）

↓

分析7 6次産業化へ向けた取組の実施状況（産業構造マップ－農業者分析）

↓

分析8 飲食店等の特化係数（産業構造マップ－稼ぐ力分析）

↓

得られた示唆と課題解決のための施策案

- 農水産業は農協・漁協以外への販売が主であり、市内3か所の直売所が重要な役割を担っている。
- 農業の6次産業化につながる取組はあまり行われていない。
- 飲食店等の労働生産性は低く、地産地消やブランド化の推進による改善の余地が見込まれる。

▼

市は次の施策を推進するため、その主体となる新たな組織の設立に向けた検討を進めている。

- 市内3か所の直売所の連携強化や商品融通を図るとともに、観光消費の拠点化を目指す。
- 農水産物の加工やブランド化の推進等、農水産物の販売金額増加に向けた取組を支援する。
- 市内飲食店等に地元の農水産物を届けるための流通体制を構築する。

活用の背景

福津市は、福岡市・北九州市の両政令市への通勤・通学の利便性が高いこと等を背景に、県内有数のベッドタウンとして発展してきた。市内産業に目を向けると、霜が降りにくい自然環境を活かしたキャベツ・カリフラワー等の露地野菜の栽培を中心とする農業、福間漁港と津屋崎漁港を中心とする水産業等が盛んである。また、多くの参拝客が訪れる宮地嶽神社、海水浴やマリンスポーツが楽しめ、おしゃれなカフェが集まる福間海岸等、観光地としての魅力もあわせ持つまちでもある。

一方、市はこれまで、観光と農水産業の振興を個々に検討してきたため、両者の連携が十分ではないという課題を認識していた。そのため、これらの地域資源を組み合わせることによる観光と農水産業の連携強化を図り、カフェ・レストラン等における農水産物の地産地消や、観光客による農水産物の消費増加等を促進することで、福津ブランドの向上や地域経済の好循環、関連事業者の収益性向上等につなげたいと考えている。

そこで今回、市の観光入込客数の状況および農水産業の現状や課題を客観的に把握するとともに、今後必要な施策を検討するため分析を行った。

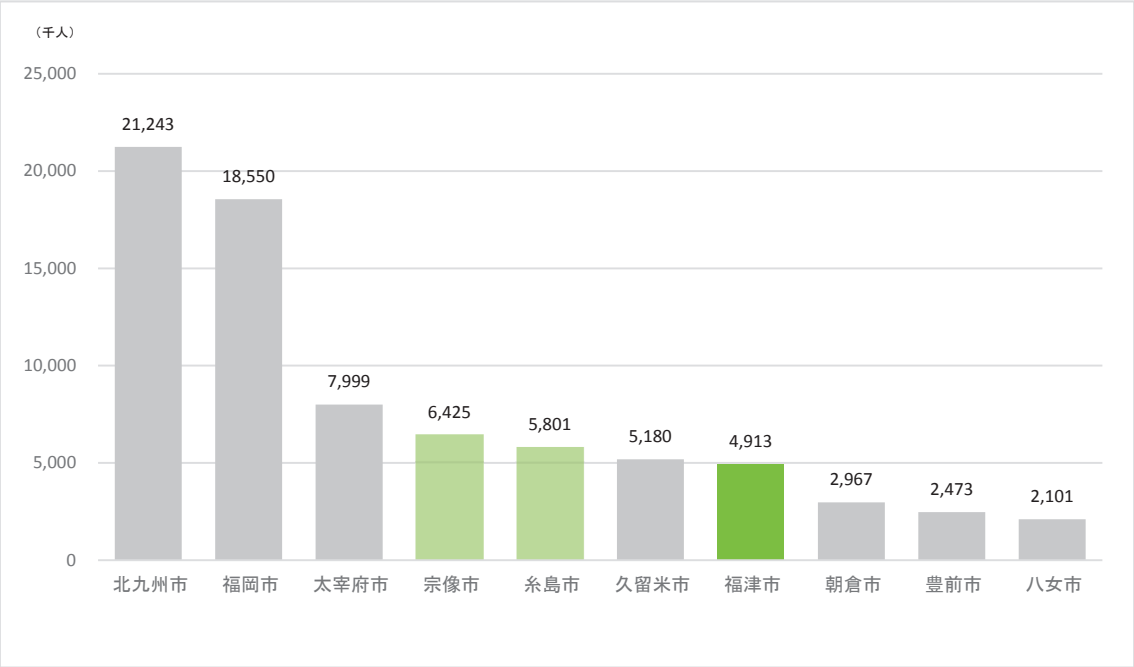
分析❶ 観光入込客数の自治体間比較（独自分析）

地域資源を活用した観光と農水産業の振興および連携強化を検討するにあたり、まず、観光の現状を分析した。

図1は、2014年の福岡県内の観光入込客数（上位10自治体）を示したものである。これをみると、福津市の観光入込客数は県内で7番目となっており、政令市である北九州市および福岡市を除くと5番目に多く、約500万人であることが分かる。また、福津市より上位の自治体に目を向けると、福津市と同様、海に面し、農水産業が盛んな宗像市および糸島市が入っている。

以上より、市に訪れる年間約500万人の観光客を農水産物の消費と結び付けることの重要性を改めて認識した。また、市と産業の特色や観光入込客数が近い宗像市および糸島市と比較分析を行うことにより、市の現状や課題をより明確に把握できるのではないかと考えた。

（図1）福岡県内観光入込客数（上位10自治体）［2014年］



●福岡県「平成26年福岡県観光入込客推計調査」を基に福津市作成

Point! 年間約500万人の観光入込客を農水産物の消費に結び付けることが重要である

分析❷ 農水産物の販売金額（産業構造マップ）

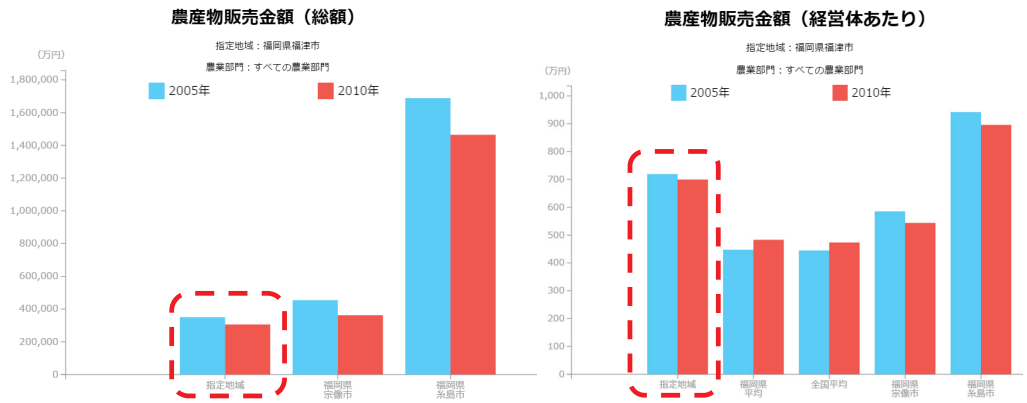
宗像市および糸島市との比較によって福津市の農水産業の現状や課題を把握するにあたり、まず、農水産物の販売金額を比較分析した。

図2は農産物について、図3は海面漁獲物について、それぞれ総額および経営体当たりの販売金額を示したものである。これらをみると、総額ではどちらも宗像市および糸島市を下回っていることが分かる。また、経営体当たりでは、海面漁獲物の2013年の金額が比較自治体の中で最下位であり、福岡県平均から約500万円、全国平均から約700万円下回っていることが分かる。

以上より、福津市の農水産業の規模は宗像市および糸島市より小さいと推察されることに加え、海面漁獲物は経営体当たりの販売金額も低く、農水産物の販売金額増加が必要となることが分かった。

（図2）産業構造マップ　農産物販売金額（総額、経営体当たり）［2005年、2010年］

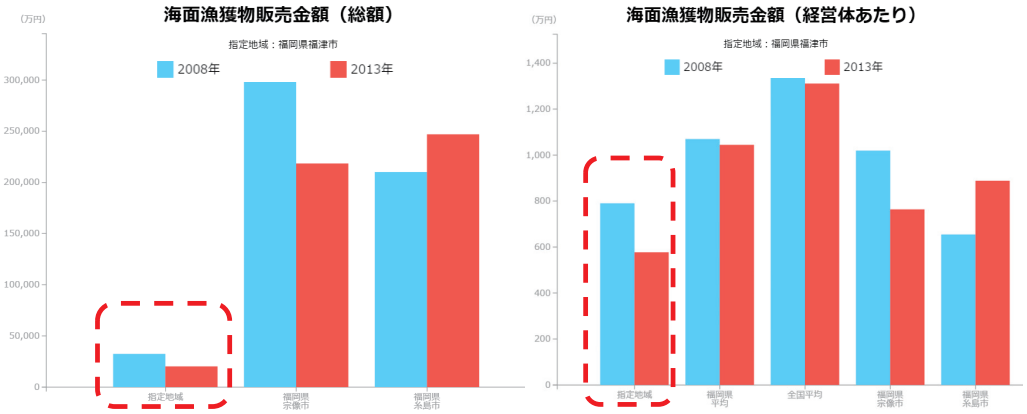
比較自治体：福岡県福津市、福岡県宗像市、福岡県糸島市



●産業構造マップ＞農産物販売金額＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞グラフを表示＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加

（図3）産業構造マップ　海面漁獲物等販売金額（総額、経営体当たり）［2008年、2013年］

比較自治体：福岡県福津市、福岡県宗像市、福岡県糸島市



●産業構造マップ＞海面漁獲物等販売金額＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞グラフを表示＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加

Point!　農水産物の販売金額増加が課題である

分析❸ 農水産業の担い手の年齢（産業構造マップ）

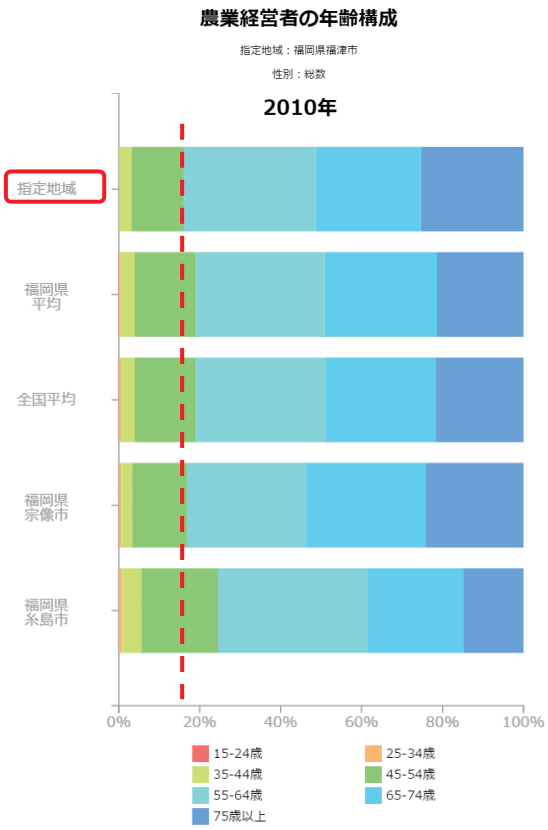
次に、今後の農水産業の維持可能性を把握するため、農水産業の担い手の年齢構成を比較分析した。

図4は農業経営者および農業就業人口の年齢構成を、図5は海面漁業就業者の年齢構成をそれぞれ示したものである。これらのうち55歳以上の割合に着目すると、農業経営者は宗像市と同程度であるが糸島市より大きく、農業就業人口は宗像市よりやや小さいが糸島市より大きいことが分かる。また、海面漁業就業者は、宗像市および糸島市より大きいことが分かる。

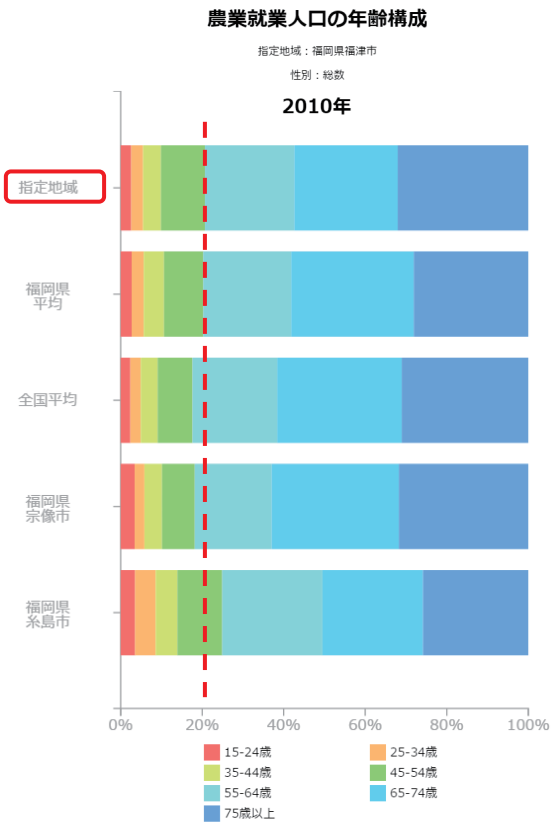
以上より、福津市の農水産業の担い手の年齢構成は宗像市および糸島市より高齢化が進んでいる傾向にあるため、後継者の確保が重要となることが分かった。

（図4）産業構造マップ　農業者分析［2010年］

比較自治体：福岡県福津市、福岡県宗像市、福岡県糸島市



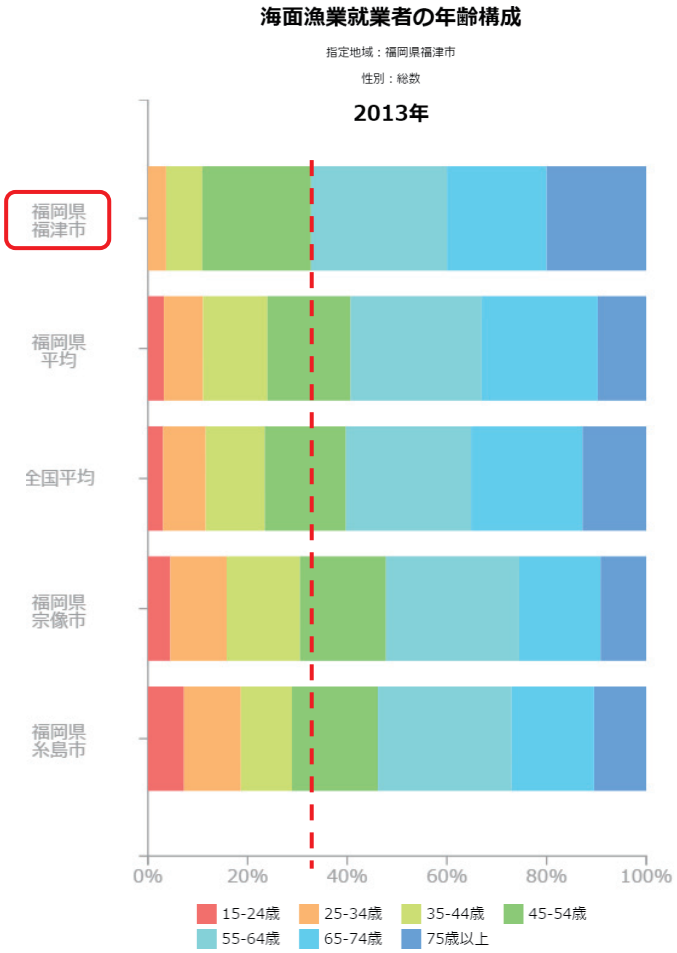
●産業構造マップ＞農業者分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞年齢構成・平均年齢＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加



●産業構造マップ＞農業者分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞年齢構成・平均年齢＞「農業者の区分を指定する」で「農業就業人口」を選択＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加

（図5）産業構造マップ　海面漁業者分析［2013年］

比較自治体：福岡県福津市、福岡県宗像市、福岡県糸島市



●産業構造マップ＞海面漁業者分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞海面漁業就業者の年齢構成＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加

Point!　福津市の農水産業の担い手の年齢は宗像市および糸島市より高い傾向にある

分析❹ 農地流動化率および耕作放棄地率（産業構造マップ）

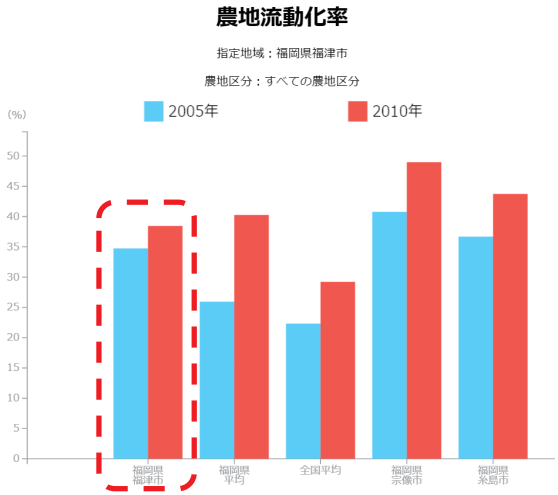
今後の農水産業の維持可能性に関連して、農地の現状を比較分析した。

図6は、農地流動化率および耕作放棄地率を示したものである。これらのうち2010年に着目すると、福津市の農地流動化率は宗像市および糸島市より低く、福津市の耕作放棄地率は宗像市および糸島市より高いことが分かる。

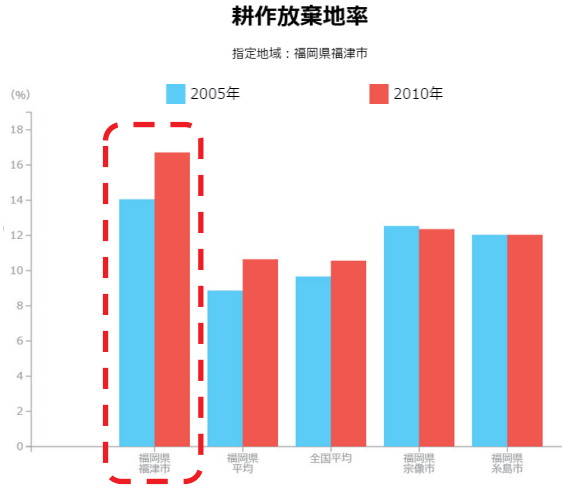
以上より、福津市の農地は賃貸借があまり活発ではなく、耕作放棄地の割合も大きいことから、今後の農業の維持・発展に懸念があることが分かった。

（図6）産業構造マップ　農地分析［2005年、2010年］

比較自治体：福岡県福津市、福岡県宗像市、福岡県糸島市



●産業構造マップ＞農地分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞農地流動化率＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加



●産業構造マップ＞農地分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞耕作放棄地率＞「比較地域を追加する」で比較対象自治体を追加

Point!　宗像市および糸島市に比べ農地流動化率が低く、耕作放棄地率が高い

分析❺ 市内の関連事業者へのヒアリング（独自分析）

福津市の農水産業の課題を定性的な面からも確認するため、市内の観光・農水産業等に関連する事業者の課題認識を分析した。

図7は、市内の農業従事者、漁業従事者、直売所、観光協会および飲食店を対象に、定期的な会議や訪問等により複数回にわたって現状や課題認識をヒアリングした結果の抜粋である。このうち、まず、農業従事者および漁業従事者の結果をみると、市の農水産業にとって後継者の確保が課題であり、その要因は収入水準の低さにあると考えていることが分かる。次に、直売所の結果をみると、農水産業の担い手の高齢化等により商品の不足が発生していることが分かる。また、観光協会の結果をみると、個々として魅力的な観光地はあるが、拠点となる施設がないため、観光消費を十分に取り込めていないと考えていることが分かる。さらに、飲食店の結果をみると、地元の農水産物へのニーズはあるものの、地産地消や福津ブランドの醸成は進んでいないことが分かる。

以上より、農水産業の後継者確保や担い手の収入水準改善のため、農水産物の販売金額を増加させることの必要性が定性的な面からも裏付けられた。また、市内の農水産物が不足していること、観光消費を十分に取り込めていないこと、飲食店には地元産食材の活用ニーズがあること等、新たな課題認識や今後の解決策の検討につながる情報を得ることができた。

（図7）市内の関連事業者へのヒアリング結果（抜粋）［2016年］

農業従事者	■ 後継者問題を抱えており、主な要因は不安定かつ他業種よりも低い収入水準にある。
漁業従事者	■ 深刻な後継者問題を抱えており、将来的には福津市漁業消滅のリスクがある。 ■ 後継者不足の主な要因は、不安定かつ他業種よりも低い収入水準にある。
直売所	■ 組合員の高齢化等で出品や生産が困難となり商品が不足している。 ■ 売上げが減少傾向にある。
観光協会	■ 個々として魅力的な観光地はあるが、観光消費の拠点となる主要施設がないため、観光客の滞在をとどめられず、観光消費を十分に取り込めていない。
飲食店	■ 市内の飲食店は、市の農水産物を用いていないことが多く、地産地消や福津ブランドの醸成には至っていない。 ■ 地元産食材に対するニーズはあり、配達があれば積極的に活用していきたい。

●市内事業者へのヒアリング結果を基に福津市作成

Point! 農水産物が不足している一方で、飲食店には地元産食材へのニーズがある

課題の見える化

福津市と同様に観光入込客数が県内上位であり農水産業に特色のある宗像市および糸島市と比較すると、福津市の農水産物の販売金額は低いことが分かった。また、農水産業の担い手の年齢構成や、農地流動化率、耕作放棄地率の面から、福津市の農水産業の将来的な存続が懸念される状況にあること等が分かった。

加えて、市内の関連事業者を対象に実施したヒアリングの結果を確認すると、RESAS分析により把握した結果とおおむね整合しており、RESASによる分析を裏付けることができた。さらに、市内の農水産物が不足していること、観光消費を十分に取り込めていないこと、飲食店には地元産の食材の活用ニーズがあること等が分かった。

これらを踏まえ、観光と農水産業の連携を強化し、農水産物の地産地消や福津ブランドの醸成を図り関連事業者の収益性向上を目指すという市の方向性が、現状や課題に即したものであることを確認した。また、市内の農水産物の流通の改善を図る必要性を認識した。そこで、これらに対する施策を検討するため、さらに分析を進めた。

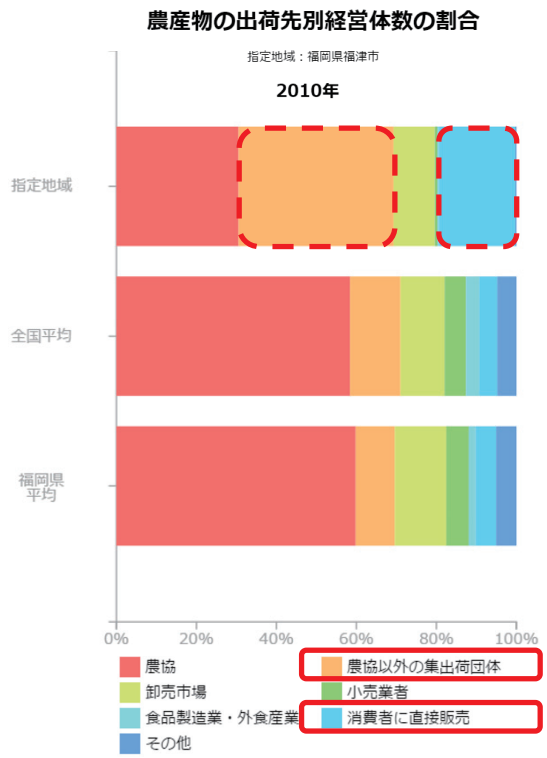
分析❻ 農水産物の出荷先（産業構造マップ）

地元産の農水産物を観光客や飲食店と結び付けていく施策を検討するにあたり、市内の農水産業の担い手がどのような出荷先に農水産物を出荷しているかを分析した。

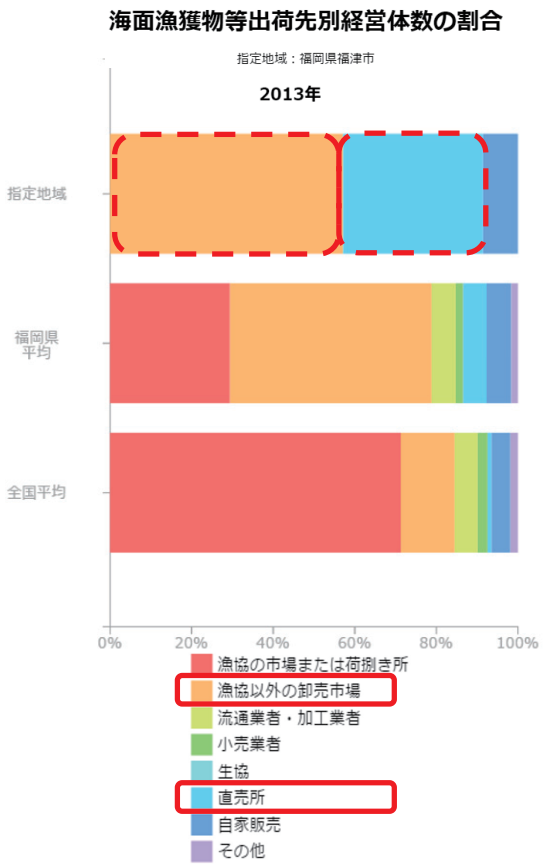
図8は、福津市の農産物および海面漁獲物等の出荷先別の経営体数の割合を示したものである。これをみると、農産物の全国平均･福岡県平均および海面漁獲物等の全国平均では、農協･漁協が大きな割合を占めているのに対し、福津市の農産物では「農協以外の集出荷団体」「消費者に直接販売」が、海面漁獲物等では「漁協以外の卸売市場」「直売所」が大きな割合を占めていることが分かる。

以上の分析結果は、市内に地元の農水産物を取り扱う直売所が3か所あることによるものと考えられるため、農協・漁協との関係が今後も重要であることに変わりはないが、市内3か所の直売所の果たすべき役割も大きいことが分かった。

（図8）産業構造マップ　農産物販売金額、海面漁獲物等販売金額［2010年（農産物）、2013年（海面漁獲物等）］



●産業構造マップ＞農産物販売金額＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞出荷先別販売金額の構成



●産業構造マップ＞海面漁獲物等販売金額＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞漁獲物等出荷先別販売金額

Point!　農協・漁協への出荷割合が低く、直売所の果たす役割が大きい

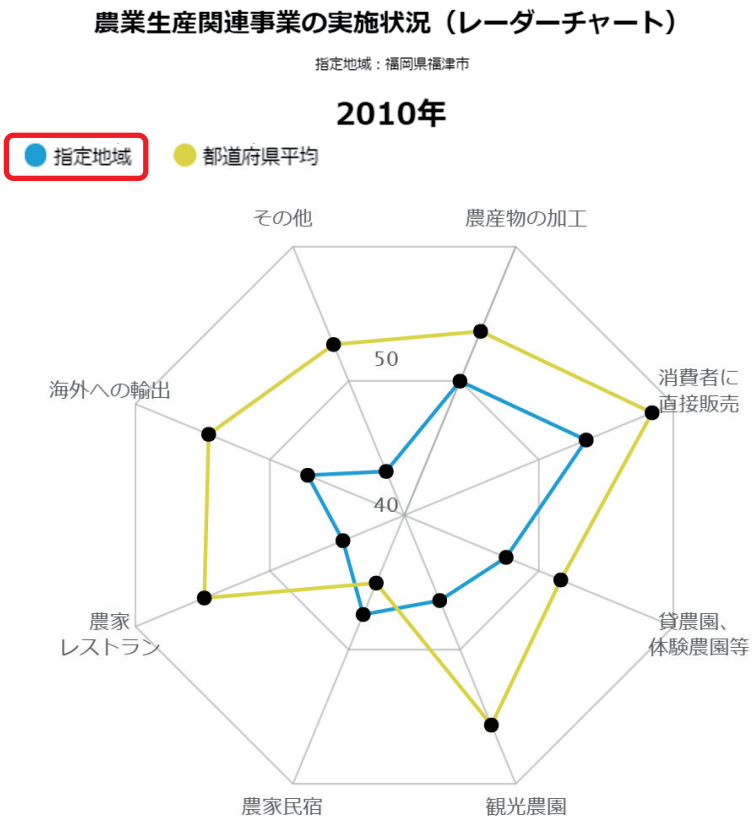
分析❼ 6次産業化へ向けた取組の実施状況（産業構造マップ）

農水産物のブランド化や関連事業者の収益性向上のためには、6次産業化の取組も有効と考えられる。そこで、福津市の6次産業化に向けた動きを分析した。

図9は、市の農業生産関連事業の実施状況を偏差値化し、レーダーチャートで示したものである。これをみると、「農家民宿」が福岡県平均をわずかに上回る水準であることを除き、福岡県平均を下回っていることが分かる。

以上より、市の農業における6次産業化の動きは低調であることが分かった。

（図9）産業構造マップ　農業者分析



●産業構造マップ＞農業者分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞農業生産関連事業の実施状況＞レーダーチャートを表示

Point! 市の農業における6次産業化の動きは低調である

分析❽ 飲食店等の特化係数（産業構造マップ）

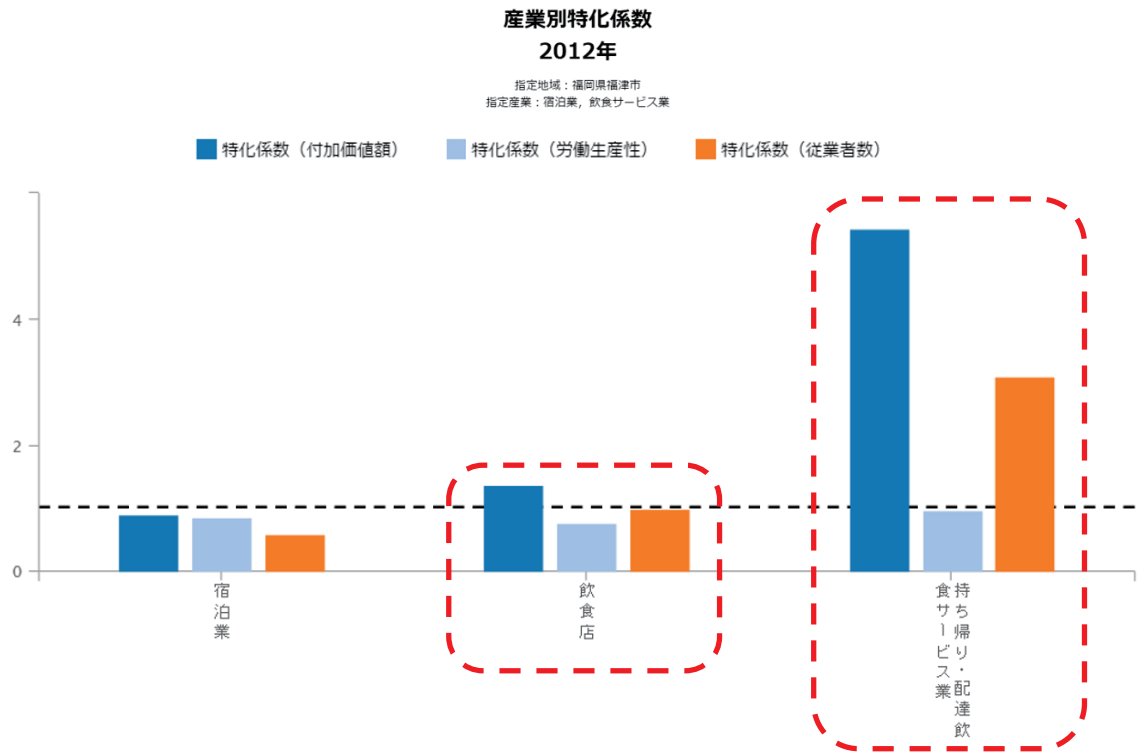
飲食店のヒアリング結果から地元産食材の活用ニーズがあったことを踏まえ、市内の飲食店等について分析した。

図10は、市内の「宿泊業，飲食サービス業」における付加価値額、労働生産性および従業者数について、全国と比較した場合の特化係数（全国水準＝1）を示したものである。これをみると、「持ち帰り・配達飲食サービス業」の付加価値額および従業者数の特化が大きいことが分かる。また、「飲食店」についても、付加価値額の特化係数が1を上回っている。一方、いずれの業種も労働生産性の特化係数は1を下回っていることが分かる。

以上より、市内の飲食店等においては、労働生産性の向上が課題であることが分かった。

飲食店における地産地消や農水産物のブランド化の促進等によって、輸送コストの削減や付加価値額の増加が見込まれる。その結果、労働生産性の改善につながることが期待できるため、これらの取組は飲食店をはじめとした関連事業者の収益性向上に資することを認識した。

（図10）産業構造マップ　稼ぐ力分析（宿泊業，飲食サービス業）



●産業構造マップ＞稼ぐ力分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞「表示産業を指定する」の大分類で「宿泊業，飲食サービス業」を選択＞グラフ分析

Point! 飲食店等の労働生産性の特化係数は１に満たず、改善に向けた取組が必要である

得られた示唆と課題解決のための施策案

福津市の農水産物の出荷先は、農協・漁協以外の出荷先、消費者への直接販売および直売所の割合が大きいことが分かった。農協・漁協への出荷は、安定した販路の確保という意味で今後も重要である。一方、直売所への出荷は、より新鮮な農水産物を供給でき、流通コストの節約や柔軟な価格設定が可能となる点で、観光客をはじめとする一般消費者と生産者の双方にとってメリットがある。市内には地元産の農水産物を取り扱う直売所が3か所設置されていることから、地産地消や農水産物のブランド化を促進するためには、これらの直売所の果たすべき役割が大きいことを認識した。

また、市の農業における農業関連生産事業の実施状況は低調であることや、市内の飲食店等の労働生産性は全国と比較して低いことが分かった。6次産業化の取組の推進や、市内の飲食店に地元の農水産物を届け地産地消やブランド化を図ることが、農水産物の販売金額増加や飲食店等の労働生産性向上につながり、さらなる農水産業の発展に資する可能性を認識した。

これらを踏まえ、市は今後、次のような施策が必要となることを整理した。

- 直売所への物流支援や直売所間の連携のまとめ役になるとともに、これらの直売所を市内の観光消費の拠点とするために必要な助言・協力を行う。
- 農水産業の担い手に対し、6次産業化をはじめとする農水産物の販売金額の増加に向けた取組の助言・指導を行う。
- 市内飲食店等に地元の農水産物を届けるための流通体制を構築する。

一方で、これらの施策は物流やマーケティング等の領域に深く関連するため、行政だけで進めていく場合に様々な不都合が生じることが予想される。そのため、市はこれらの取組をオール福津で推進するための新たな組織の設立が必要と考え、現在、その組織形態や設立後の具体的な役割等について検討を進めている。今後、設立した組織との緊密な連携により、観光と農水産業の活性化に取り組んでいきたいと考えている。

利活用の現場から ―福津市 行政経営企画課―

県内有数のベッドタウンでありながら、観光や農水産業にも魅力を有する福津市。施策立案までの経緯や、検討においてRESASをどのように活用したのかについて、担当部署にお話を伺った。

観光と農水産業をつなぐ

福津市は、テレビCMの舞台となったことで全国的にも注目を集めた宮地嶽神社や、カフェ・レストランが集まる美しい海岸、豊かな自然に育まれた新鮮な農水産物等の地域資源を有しており、多くの観光客が訪れています。一方で、市内には宿泊施設が少ないため、通過型観光の中で、いかにして市内に観光消費を取り込み、地域経済の活性化につなげていくかという視点が重要だと考えています。このような面から、従来は個々に振興を図ってきた観光と農水産業の連携を強化し、たくさんの人に市へ訪れてもらい、その中で一人でも多くの方に市の農水産物を買ってもらう、あるいは食べてもらうための取組が必要と考え、今回の施策検討につながっていきました。

■地元の農水産物を取り扱う直売所

「オール福津」で魅力を発信

RESASを使って県内の他地域と農水産業の現状を比較することで、担い手の高齢化や耕作放棄地率の高さといった市の課題の把握につながりました。また、事業者との対話を進める中で、農水産業の担い手の所得向上の必要性や、農水産物の流通に改善の余地があることが分かりました。このように、客観的なデータと、数字には表れない経験や感覚といったものを組み合わせることで、地域の実態や課題がより明確になっていくことを、分析を進めるうちに自然と実感しましたね。

このようにして様々な課題が浮き彫りになりましたが、まずは、市内の飲食店等における地元の農水産物の取扱いを増やす、商品が不足したときに直売所間で農水産物を融通するといった、「オール福津」で地域資源の魅力を発信する体制づくりが必要ではないかと考えました。そこで現在、これらの取組の主体となる新たな組織の設立に向け、検討を進めているところです。

次期総合計画の策定にRESASを活用

今回の施策検討を経て、RESASは地域の全体像の把握や、地域課題発見のきっかけとなる気づきの提供に優れたツールであることを改めて認識しました。市では現在、次期総合計画の策定に向け、若手職員を中心とした自主研究会を開催していますが、市の将来像を描く総合計画の検討において、RESASはとてもマッチするのではないかと思っています。そこで先日、自主研究会の参加者に呼びかけて、RESASの勉強会を開催しました。参加者の中には、RESASを使ったことのない職員や、そもそもRESASを知らなかったという職員もいましたが、勉強会終了後には、今後積極的に活用していきたいという声が多く聞かれたので、よい機会になったと思います。我々企画部門としても、庁内にRESASの存在を広め、様々な分野で積極的な活用を促していきたいと考えています。

■RESAS自主勉強会の様子